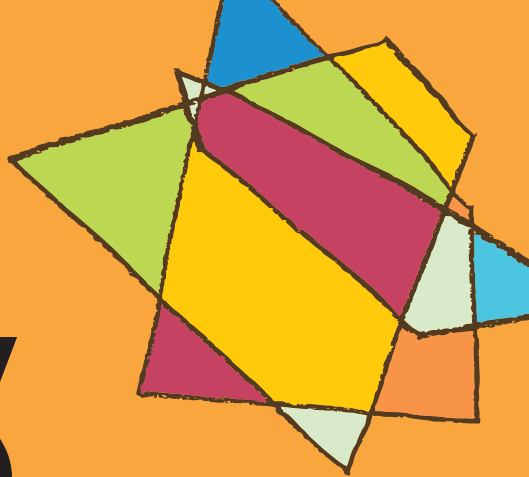


来てけさいん

六郷

七郷

仙台わかばやし



僕のふるさと
仙台へようこそ!



『来てけさいん六郷・七郷』*は、東日本大震災により被災した若林区六郷・七郷地区の復興の現状と、この地域の魅力を多くの方々に知っていただき、実際に足を運んでいただくことを目的として制作されました。編集には、若林区で復興支援活動を行ってきた六郷・七郷コミネットと若林区復興応援隊、そして市内にキャンパスを構える東北学院大学、東北工業大学の各研究室があたりました。

この冊子は「震災の記憶」「六郷・七郷の風景」「六郷・七郷の農業」「農家レストラン」「買う・食べる」「復興へ」という6つのジャンルから、この地で生活と生業を再生しようと奮闘している人々の姿、長年大切にされてきた豊かな自然と文化をお伝えします。皆様もぜひ六郷・七郷に足を運び、この地域を存分に味わってみてください。

*「来てけさいん」は「来てください」という意味の仙台弁です。「六郷・七郷」は明治の大合併により生まれた、名取郡六郷村・宮城郡七郷村というかつての村名に由来します。昭和16年、六郷村・七郷村が仙台市に編入合併されてからも、現在に至るまで、地区の名称として残されてきました。

ごあいさつ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、仙台市の沿岸地域は8,110世帯、農地約1,800haの浸水にくわえ、各産業施設、ライフライン施設も損壊するなど、大きなダメージを被りました。4年が経過した現在もなお、沿岸部には震災の爪痕が残されています。

とりわけ甚大な被害を受けたのが、若林区の東部に位置する六郷・七郷と呼ばれる地区です。ここは緑豊かな田園風景が広がり、数多くの歴史や文化を受け継いできた、昔ながらの魅力にあふれる地域でした。

この六郷・七郷地区の復旧・復興は、住民自身の努力にくわえ、多くの市民団体、ボランティアの手により成し遂げられようとしています。この点は後世に語り継いでいくべきことだと感じております。

この『来てけさいん六郷・七郷』を手にとっていただいた皆様に、六郷・七郷地区で活躍する人々の姿をご紹介します。この地域の復興状況をご覧いただくことで、新しい時代への礎をお伝えできればと思います。



若林区長
高橋 新悦



1 貞山堀

阿武隈川から松島湾を経て旧北上川まで、全長49kmにわたる長さ日本一の運河群です。地域により貞山(ていざん)運河(貞山堀)、東名(とうな)運河、北上(きたかみ)運河と呼ばれています。

古くは舟運を目的として、仙台藩主・伊達政宗の命で建設が始まり、後に、明治政府による東北地方の産業振興策として計画された野蒜(のびる)築港事業に関連して延伸されました。

貞山堀の名称は、明治18(1884)年に最後の区間が開通した際、仙台藩祖伊達政宗の法号(瑞巖寺殿貞山禅利大居士)より貞山をとって命名され、後に全水路を貞山堀と称するようになりました。そのため、政宗の時代に完成したものと誤解を生んでいます。

近年は治水や利水といった河川としての役割に加えて、歴史的な土木遺産としても多くの方々に愛されてきましたが、東日本大震災の大津波によって美しい景観が失われてしまいました。

現在、この貴重な地域資源である貞山堀や海岸防災林の再生に向けての取り組みが進められています。



震災前の貞山堀と荒浜の住宅地
(平成20年1月頃撮影)



2 荒浜祈りの塔

東日本大震災の犠牲者への慰霊と鎮魂のため、荒浜自治会と七郷連合町内会により建てられ、震災から2年後の平成25年3月11日に建立式が行われました。

「祈りの塔」は荒浜地区を襲った津波とほぼ同じ高さの9mです。右手の慰霊碑には190名の犠牲者の名前が刻まれています。左手の慰霊塔は平成23年12月に建てられ、「祈りの塔」と慰霊碑が建立される際、現在の場所へ移されました。

維持・管理を行っている荒浜自治会の早坂昇さんは「思い立ったときやお盆、お彼岸の際に立ち寄ってもらえれば」と話しています。

●若林区荒浜中丁 ●市営バス南長沼下車 徒歩14分



3 荒浜小学校

明治6(1873)年創立という長い歴史があり、地域に育まれてきた学校です。海から700mの所に立地しており、津波は校舎の2階まで押し寄せました。

震災後、荒浜小学校では防災対策を強化し、子どもたちとその家族を含めた防災意識を高めることを目指しています。各家庭で「防災家族会議」を開き、「わが家の防災カード」づくりに取り組んでいます。避難訓練については、登下校中など様々なケースを想定して行っています。

現在、授業は東宮城野小学校の教室を借りて行われており、荒浜小学校の校舎は震災遺構としての保存が検討されています。

●若林区荒浜新堀端32-1 ●市営バス南長沼下車 徒歩6分



4 東六郷小学校

昭和32年に開校し、今年度で創立58年の学校です。震災前は豊かな田園風景の中、約50名の児童が学んでいました。震災直後には約500名が避難しました。現在は六郷中学校の教室を借りて授業が行われています。

●若林区種次山王前2-6 ●市営バス東六郷小学校前下車 徒歩1分

5 フードショップ茶屋 芳賀商店

明治39年頃からお店を開いており、日用品から手作りの惣菜まで幅広い品を販売しています。震災時はお店の一角にある井戸の水が地域の方々の助けになりました。店を切り盛りする芳賀とよ子さんは「茶屋が今後も地域の方々の憩いの場になれば良い」と話しています。

●若林区飯田字屋敷34-3 ●TEL 022-289-5022 ●営業時間 8:30～19:30 ●定休日 日曜日 ●市営バス下飯田中区下車すぐ



8 五柱神社

災害危険区域に指定された藤塚集落にある神社で、名前の由来となる五社が境内に祀られています。この地域は昔から水害に悩まされ、地元を守る神さまとして町内会が管理し、大切にされていました。かつては豊作祈願・家内安全祈願や、季節ごとに献膳講祭・春祭り・秋祭りが行われ、住民同士の交流の場として地域との関わりが深い神社でした。鳥居や社殿は藤塚の集落とともに津波によって失われましたが、平成27年5月に本殿と拝殿の再建が予定されています。現在は新たに建てられた仮の社と、流れずに残された狛犬が置かれています。

●若林区藤塚字屋敷51 ●市営バス中野下車 徒歩20分

6 海岸公園冒険広場

平成17年の開園以来、子どもたちが自由な発想で遊べる場として親しまれてきました。ここには7～8mの津波が押し寄せ、現在も休園中です。敷地内の15mの高台が近隣住民ほか5名の命を救い、仙台市震災復興計画にある「避難の丘」のモデルになりました。

●若林区井土字開発139-1 ●市営バス井土浜下車 徒歩14分



7 仙台市農業園芸センター

収益性の高い農業の推進や、人々と農との触れ合いの拠点として、平成28年度のリニューアルオープンを予定しています。平成27年度は、歴史ある梅園や200品種1,200株のバラ園、彫刻のある芝生広場などの公園部分を無料公開しています。

●若林区荒井切新田13-1 ●TEL 022-288-0811 ●市営バス農業園芸センター前下車すぐ



9 浪分神社

元禄15(1702)年の造営から、過去に幾度となく経験した津波を今に伝える神社です。現在の鎮座地は慶長16(1611)年の慶長三陸地震の際に、津波が2つに分かれた場所だとされています。

神社が移設された後、あるとき東北地方で大津波があり、何度も大波が押し寄せ、多くの溺死者が発生したと伝えられています。海の神が白馬に乗って降臨し、襲い来る大津波を南北2つに分断して鎮めたといわれる「白馬伝説」は、天保6(1835)年の宮城県沖地震以降に語られるようになったとされています。

●若林区霞目2丁目15-37 ●市営バス霞の目下車すぐ



10 いぐね

六郷・七郷地区に広がる水田地帯のところどころに、島が浮かんでいるように見える光景があります。この島の正体は、農家の屋敷を取り囲んでいる何十本もの樹木です。この地域の人は古くから、こうした屋敷林を「いぐね」（「居久根」と書くこともあります）と呼びならわし、大切に守り育ててきました。

それにしても、なぜ農家の人々は住居のまわりに木々を植えたのでしょうか。仙台平野には冬の時期、奥羽山脈からの北西風が吹きすさび、風が吹くままにしているは茅葺き屋根が飛ばされてしまいます。そこで、スギやヒノキなど丈夫で大きくなる木を、屋敷の北側と西側に植えていったのです。

しかし、風雪を防ぐことだけが「いぐね」の役割ではありません。近くに山がないこの地域では、落ち葉や細い枝などが貴重な燃料となりました。樹齢の長い木は、建築資材として用いられたそうです。また、モモ・ナンなどの果実、クリ・クルミなどの木の実が食料となり、桜・アジサイなど季節の花々は見る者の目を楽しませてくれます。

このように六郷・七郷の原風景とも言える「いぐね」ですが、近年の生活様式の変化とともに少なくなり、東日本大震災の津波で、さらに多くが失われてしまいました。震災からの復興の中で、「いぐね」を再生しようという取り組みもはじまっています。

参考文献

七郷の今昔を記録する会(1993年)『ふるさと七郷——もう一つの仙台』

菅野正道(2014年)『イグネのある村へ——仙台平野における近世集落の成立』



11 谷風の墓

陸奥国宮城郡霞目村出身の横綱、谷風梶之助(たにかぜかじのすけ、1750～1795年)のお墓です。江戸本場所だけで63連勝するなど、歴代横綱の第一人者とも称される「仙台の谷風」。平成27年の夏巡業では、仙台市体育館(太白区)で「大相撲仙台場所」が開かれます。

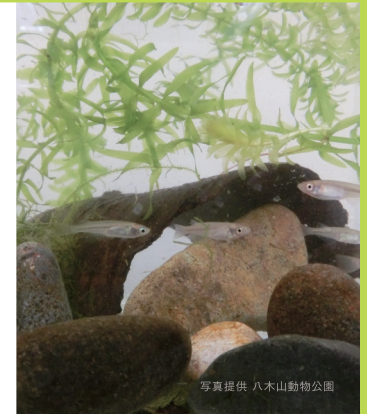
●若林区霞目2丁目1 ●市営バス霞の目下車 徒歩3分

12 六郷のメダカ

井土集落の田んぼの用水路に固有種としてわずかに生息していたメダカは、津波によって生息地を奪われてしまいました。そこで現在、メダカを繁殖し定着させるためのプロジェクトが始まっています。このメダカは八木山動物公園(太白区)で見ることができます。

八木山動物公園

●太白区八木山本町1丁目43 ●TEL 022-229-0631 ●営業時間 9:00～16:45(11～2月は9:00～16:00) ●定休日 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始 ●市営バス動物公園前下車すぐ



写真提供 八木山動物公園



13 東六郷小学校 くろしお太鼓

東六郷小学校でクラブ活動として始まり、祭りや学芸会で演奏されています。この活動は全児童が取り組み、新入生へと受け継がれてきました。現在は「新黒潮舞太鼓」「新開宴太鼓」の2曲があり、太鼓の響きからは子どもたちの力強さを肌で感じることができます。

14 七郷神社丹波神楽

昭和2年、木ノ下白山神社から神楽を習得したのが始まりです。現在は七郷神社の春と秋の例大祭に奉納したり、地元小学校のクラブ活動に取り入れられたりするなど、地域に根付いています。七郷神社丹波神楽は仙台市無形民俗文化財にも指定されています。





15 菅野農園

菅野浩次さんが園主を務める菅野農園は、7代続く歴史ある農園です。菅野さんは18歳から農業を始め、先代から受け継がれてきた農業に対する情熱でこれまで野菜を作ってきましたが、東日本大震災の津波が田畑に押し寄せ、農機具や野菜、苗などすべてを流されてしまいました。地域の中では震災を機に農業を辞めた人も多く、菅野さんも農業を再開できるか不安になったそうです。

そんな時に農業仲間からの苗の提供と励ましの言葉により、「自分の野菜を待つ消費者のために、受け継いできた農業を絶やすわけにはいかない」という強い気持ちを持ったといいます。また、ボランティアのみなさんからの後押しもあり、一生この地で農業を続けることを決めました。

菅野農園の自慢の野菜はトマトとキュウリです。作っている野菜の種類は数十種類もあり、種をまく時期や季節ごとに生育方法が違います。おいしさの秘訣は化学肥料をあまり使わず、たい肥や自然肥料をふんだんに使っていること。収穫した野菜は宮城野区にあるJA仙台農産物直売所「たなばたけ」に出荷しています。また、若林区中央市民センター別棟駐車場毎月第2、第4土曜日の午前6時～8時に行われている朝市でも販売しています。

菅野さんは「直売所ではお客さんとのふれあいが楽しみ。お客さんの生の声がすぐに聞ける。それが野菜作りの励みやヒントになっている。これからも多くの人に野菜を届けたい」と話してくれました。

●若林区荒井川戸東 ●TEL 022-288-5670 ●市営バス笹新田下車 徒歩5分



16 荒浜集落営農組合

震災後、個人で農業を継続できる人が少なくなり、離農したいという農家が増えました。荒浜集落営農組合では耕作放棄地の増加を防ぐため、地域住民が一体となって野菜や米の生産に取り組んでいます。特におすすめの野菜は辛味大根で、蕎麦やうどんの薬味として相性抜群な一品。ここで生産された野菜は宮城野区の直売所「たなばたけ」で買うことができます。荒浜の農業の再生を願いつつ、今後も「荒浜の顔」となる野菜をたくさん作っていきます。

●若林区荒浜字一本杉北15-2 ●TEL 022-349-4178 ●市営バス南長沼下車 徒歩1分



17 遠藤喜一さんの畑

田園地帯が広がる三本塚で農業を営んでいます。田んぼや畑は津波で甚大な被害を受けましたが、様々な人の支援を受け、いち早く農業を再開することができました。現在は、レタスや仙台白菜をはじめとした野菜を栽培し、宮城野区の「たなばたけ」で販売しています。特に、ひょうたんのような形をした珍しいかぼちゃ「バターナッツ」、食感・風味がアスパラに似ている「アスパラ菜」という珍しい野菜はとても人気があります。田植えやじゃがいもの栽培といった農業体験もでき、地元や県外から多くの学生たちが訪れています。

●若林区三本塚中谷地277 ●TEL 022-289-3287 ●市営バス長屋敷下車 徒歩1分



JA仙台農産物直売所 たなばたけ

●宮城野区福室2丁目7-30 ●TEL 022-388-7318
●営業時間 10:00～18:00 ●定休日 水曜日・年末年始
●JR仙石線陸前高砂下車 徒歩2分
●URL <http://secure.jasendai.or.jp/tanabatake/>



18 農家レストラン もろや

江戸時代から9代続く農家が、平成12年に開業したレストランです。店主の萱場市子さんは、「食生活の重要性を伝え、旬の野菜を通して食育をしていきたい。料理で用いた野菜の調理方法などは、聞いてもらえれば丁寧に教えたい」と話します。

野菜は年間150種類以上栽培しており、その全てに四季折々の自家製野菜を使用しています。月替わりの旬野菜御膳、季節行事ごとに作る行事食などのメニューがあります。

特に減農薬で栽培した米(ミルキークィーン)で作る「煎り大豆おこわ」、仙台伝統野菜を用いた「曲りねぎの一本焼き」「からどり頭芋の煮物」「仙台伝統白菜のお漬物」はとても人気があります。どの季節のメニューも前菜からデザートまで味わいつくことができ、素材本来の味を楽しめます。

また、「もろや」で販売している「仙台おやき」は小麦粉ではなく、自家製の減農薬で作っている米粉の生地、季節ごとの野菜の餡を包み込んだおまんじゅうです。こちらは予約時に注文してもらう必要があります。イベント時にも販売しており、食べてもよし、お土産としても喜ばれる一品です。

平成27年12月には仙台市営地下鉄東西線の開業に合わせ、東の終着点である荒井駅前にリニューアルオープンします。「リニューアルに伴い、米や野菜、デリカの販売も行う予定ですので、是非新しい『もろや』を体感してほしい」と萱場さんは話しています。

●若林区荒井字沓形88-2 ●TEL 022-288-6476 ●営業時間 11:30~14:00(前日までに要予約)

●定休日 月・火曜日 ●市営バス荒井下車 徒歩10分 ●URL <http://moroya-farm.com/>



19 六丁目農園

店内の雰囲気もスタッフの仲の良さも自慢の、アットホームなビュッフェレストランです。自家製バジルを使ったふわふわ生地のピザなど、常時50~60種類の手作りメニューがあります。一番人気の玉ねぎのローストは約1時間皮ごと丸焼きにし、岩塩を使うことで甘味が引き立つ自慢のメニューです。

「六丁目農園」では障がい者雇用にも力を入れています。色々な人が一緒に働ける場として、「挑戦と愛情」をモットーに、スタッフ全員がそれぞれの個性を生かしながら、さわやかなあいさつと笑顔で出迎えてくれる、明るい雰囲気のレストランです。

●若林区六丁目字南97-3 ●TEL 022-287-7350

●営業時間 11:15~15:30(予約可) ●市営バス六丁の目東町下車 徒歩3分 ●URL <http://www.sprasia.com/tv/user/rokunouen/main>



20 おにぎり茶屋 ちかちゃん

平成25年5月にオープンした、地元の食材をふんだんに使った農家レストランです。人気メニューは七郷地区のお米を使った大きなおにぎりを2つ選べるランチプレートで、なかでも自家製の味噌を使用した味噌おにぎりが一番人気です。生産した食材を自ら加工、販売する6次産業化に取り組む中で開かれたお店で、店内で食事ができ、メニューのテイクアウトや味噌やお米などを買うこともできます。

津波により、お店の関係者も大きな被害を受けました。震災後にオープンしたお店は、働くみなさんの笑顔が素敵で、多くの人々から愛されています。

●若林区蒲町31-15 ●TEL 022-353-9571

●営業時間 10:00~16:00(ランチ11:00~15:00)

●定休日 日曜日 ●市営バス蒲の町下車 徒歩1分



21 畑の中ごはん屋 ちよっころ

笑顔が素敵に加藤一さんと和江さんご夫妻が営む農家レストラン「ちよっころ」。自分の家のように心安らげる、落ち着いた雰囲気の特徴で、地域の方々の憩いの場にもなっています。

自宅の畑で収穫した新鮮な野菜のサラダや米粉を使ったピザ、煮物や漬物といったひとつひとつの料理は、「素材本来の味を届けたい」「農家の人が普段食べているものを食べてほしい」という思いが込められており、どの料理も野菜が本来持つ「味」がよく生きています。また春には甘味の強いサラダ蕪、夏には皮がやわらかい水ナス、冬には雪菜やちぢみホウレンソウといった、季節ごとの旬な野菜を使ったメニューがあり、それぞれの季節ならではの料理を味わうことができます。

震災時、名取川に面した加藤さんの畑には津波が押し寄せ、瓦礫の散乱やビニールハウスが流される被害がありました。ボランティアの協力により、生産を再開できる畑も増えました。

そして平成24年12月、以前から挑戦したかった農家レストランの夢を叶え、「ちよっころ」がオープンしました。「ちよっころ」を開くことで、「色々な人と知り合えた。おいしいという声をじかに聞ける嬉しさは、お金に換えられない」と言います。オープンして3年目を迎える今年は、「ちよっころ市」をはじめ、地域の人々と一緒にイベントを開催し、年2回行っている福島での野菜直売を継続していきます。

「人を想う、優しいおもてなしの心と感謝の気持ちを忘れず、今後も頑張っていきたい」と加藤さんは話しています。

●若林区日辺字宅地96 ●TEL 022-289-2554 ●営業時間 11:30～15:00(木・金・土曜日のみ営業。要予約。予約時間は17:00～21:00) ●市営バス日辺下車 徒歩10分



22 仙台場外市場 杜の市場

国道4号バイパス沿い、仙台中央卸売市場の近くに位置する仙台市民の食の台所。東北の農村・漁村の再生、東北の食材の発信をテーマに、鮮魚・青果・精肉・飲食店など20以上のお店が入っています。地元の新鮮で美味しい食材が何でも揃う、活気にあふれた市場です。

●若林区卸町5丁目2-6 ●TEL 022-762-5701 ●営業時間 9:00～19:00 ●市営バス中央卸売市場正門前下車 徒歩3分

23 仙台中央卸売市場

仙台市民の食を支える生鮮市場で、水産物や青果、加工品などの取引が行われています。白熱したせりの様子を建物の2階から見学することが可能です。食堂は一般にも開放されており、新鮮な食材を用いた海鮮丼や定食が特に人気で、平日でも行列ができるほどです。

●若林区卸町4丁目3-1 ●TEL 022-232-8111 ●市営バス中央卸売市場正門前下車すぐ



24 一般社団法人 産直広場ぐるぐる

「若林マルシェ&おしゃべりサロン」を開催し、六郷・七郷地区の農家が作った野菜の販売、伝統文化や季節の行事を伝えています。団体名には「みんなの笑顔がぐるぐる回る」という思いが込められており、地域の方々にとって大切な交流の場となっています。

●若林区若林3丁目1-18 ●営業時間 9:30～13:00(水曜日のみ) ●市営バス法務省アパート前下車 徒歩5分



25 株式会社荒浜 アグリパートナーズ 産直ぽんぽこ

毎週水・土曜日に、地下鉄南北線五橋駅近くの荒町商店街において、荒浜をはじめとする六郷・七郷地区で採れた新鮮な野菜や果物を販売しています。まごころを込めて育てられた野菜は地元の人々からも非常に好評で、買い物が不便な人からの需要が高まっています。

●若林区荒町127(及川酒店前) ●営業時間 10:00～17:00(水・土曜日のみ) ●市営地下鉄「南北線」五橋駅下車 徒歩5分





26 一般社団法人 ReRoots

農業の再生は農村の再生にある——その想いを胸に仙台市内の大学生を中心としたメンバーが、被災農地のガレキ撤去を手始めに、「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトとして活動してきました。現在、失われた景観の再生を目指す「ひまわりプロジェクト」、集団移転地域で野菜の移動販売を行う「若林区とれたて野菜お届けショップくるまあと」、農業に親しみ、人の往来を作り出す「いっちゃん若林～田畑の復興ツーリズム」などに取り組んでいます。「ReRootsファーム」では自分たちも野菜作りを学び、若者の農業への関心を高めようとしています。

- 若林区荒浜字今泉59-3 ●TEL 022-762-8211 ●市営バス笹新田下車 徒歩5分
- URL <http://reroots.nomaki.jp/>

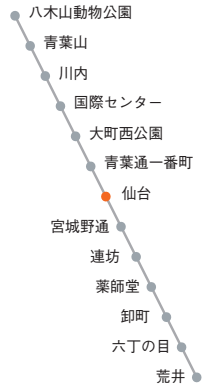


27 防潮堤

六郷・七郷地区の沿岸部では、防潮堤（海岸堤防）の復旧が進められています。T.P.（東京湾平均海面）+7.2mの堤防が平成27年度までに整備される予定です。なお、仙台市内で整備する堤防には、「震災がれき（津波堆積土砂、震災コンクリート殻）」を活用しています。

28 かさ上げ道路

東日本大震災クラスの津波による被害を軽減することを目的として、現在の県道塩釜亘理線と並行するかたちで、堤防の機能を付加した道路を建設しています。かさ上げ道路の高さは約6m、車道の幅は約10m、盛土の下幅は30～40mで、平成30年度に完成予定です。



29 仙台市営 地下鉄東西線

仙台を西から東へつなぐ地下鉄東西線。緑豊かな住宅地の広がる南西部から、先端的研究地区である青葉山、多くの人で賑わう都心部、歴史と文化が息づく市街地などを経て、海辺に近い東部の田園地帯に至る14kmを、13の駅で結びます。開業により新たな交流が生まれ、都市文化の醸成、地域の活性化、さらに新たなビジネスの発展につながるものと期待されています。地下鉄東西線は、平成27年12月6日に走り始めます。



30 海辺の図書館

荒浜の地域全体を「図書館」、またそこに集まる人々を「蔵書」に見立て、震災前の荒浜の記憶を語り合い、想いを発信することを目的として活動しています。現在は、まちづくりや人とのつながりについて考える「勇気講座」を開催しています。

- 若林区荒浜字中丁27 ●市営バス南長沼下車 徒歩12分

31 語り部タクシー

「語り部タクシー」は震災を風化させないために、当時の様子や防災についての経験を共有し、語り伝えていく取り組みです。市内には宮城復興支援センターの講習を受けた「語り部ドライバー」が約200名おり、被災地の案内役として活躍しています。

- 一般社団法人 宮城県タクシー協会
- 若林区卸町東3丁目2-38 ●TEL 022-288-1113
- URL <http://taxi-miyagi.com/>



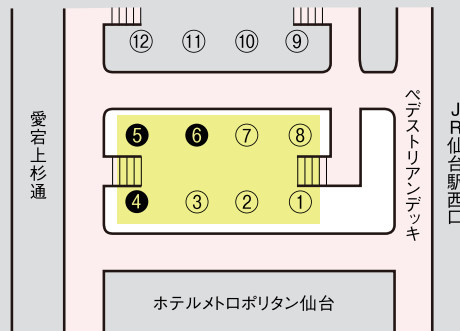
写真提供 一般社団法人宮城県タクシー協会

仙台駅西口バスプールから六郷・七郷地区へのバス案内

目的地	のりば	行先	降車バス停	所要時間	運転間隔
22 仙台場外市場 杜の市場	④	狐塚	中央卸売市場正門前	14分	30~60分
23 仙台中央卸売市場		霞の目営業所前			
20 おにぎり茶屋 ちかちゃん	④	霞の目営業所前			
	⑤	霞の目営業所前	蒲の町	14~19分	5~15分
	⑥	南長沼			
18 農家レストラン もろや	⑥	南長沼	荒井	23分	30分
	⑥	農業園芸センター前			
26 ReRoots	⑥	南長沼	笹新田	28分	60分
2 荒浜折りの塔	⑥				
3 荒浜小学校					
16 荒浜集落営農組合		南長沼	南長沼	30分	60分
27 防潮堤					
30 海辺の図書館					
5 フードショップ茶屋 芳賀商店	⑤	藤田	下飯田中区	24分	30~60分
17 遠藤喜一さんの畑	⑤	霞の目営業所前	長屋敷	27分	120分
4 東六郷小学校	⑤		東六郷小学校前	28分	60分
6 海岸公園冒険広場		中野	井土浜	29分	
8 五柱神社			中野	30分	

平成27年12月の地下鉄東西線開業により、バス路線が変更になる予定です。

仙台駅西口バスプール案内図



- 文 小中学校
- ⊗ 高等学校
- 卍 神社
- X 交番
- ◎ 区役所
- 🗑️ 清掃工場
- IC インターチェンジ
- 🚏 バス停

—

企画・編集

六郷・七郷コミネット
若林区復興応援隊
工藤 紀子
千葉 崇行
花坂 明恵

—

取材：

東北学院大学
経済学部
共生社会経済学科
齊藤康則研究室

—

小泉 咲耶香
佐藤 千尋
田口 裕之
新関 弘透
林田 祝子
藤田 諒祐
門間 千秋

—

デザイン：

東北工業大学
ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科
古川哲哉研究室

—

藤山 遥

—

印刷：

(株)ハドル

—

発行：

六郷・七郷コミネット
〒984-8601
宮城県仙台市若林区
保春院前丁3-1
若林区役所まちづくり推進課内
電話022-282-1111
(内線6136)

平成27年3月発行

(この冊子に掲載されている情報は
平成27年2月時点のものです)

